



平成 25 年度 海士町成人式

8月15日(木)、恒例の『真夏の成人式』が行われ、該当者20名のうち17名(うち女性6名、男性11名)が参加しました。隠岐神社での奉告祈願祭では、新成人を代表して尾嶋祥一さん(福井出身)が玉串奉奠を行いました。その後、隠岐開発総合センターにおいての式典では、「これからは大人の自覚をもち、地域の方々や両親に恩返しをしていき、新たな気持ちで物事に挑んでいきます」との『誓いの言葉』を福井在住の川本貴保さんが、家族やお世話になった皆さんへの感謝を伝える『謝辞』を菱浦在住の岡本利恵子さんが、それぞれ壇上で読み上げました。

今年のサプライズ企画は、残念ながら出席できなかった仲間の人、八角部屋の海士の島(北分出身、宇野信之さん)からのビデオレター上映。海士の島は、「相撲界に入って丸2年経ち、現在の番付は3段目36枚目ですが、力士は十両以上が一人前。稽古に精進し、どんどん番付を上げていくよう頑張ってください。応援よろしくお願いします!」と出世宣言。最後は晴れの成人式を祝って相撲甚句を堂々と歌い上げ、会場は同級生たちの笑顔と温かい喝采に包まれました。

成人式では例年、町内で活躍する先輩が若者たちへメッセージを贈っていますが、今年は役場職員の中香理さんがプレゼンターとして登場しました。濱中さんは、自分自身「迷走」していたという学生時代を振り返り、「進路に迷いながらも色々動いて試行錯誤してきたからこそ今がある。例えば、危うく店長になりかけるほど頑張ったラーメン屋のバイトでは、多忙な中での業務のさばき方や優先順位のつけ方を学ぶことができ、それは今の仕事でも活かしている。迷っても閉じこもってはダメ、とにかく何でもやってみよう!」と、失敗を恐れずに経験を蓄積していくことの大切さを力説。『逆転の発想』でコンプレックスを武器に変えるということ、仕事をする上で「提案はするけど文句は絶対に言わない」というこだわりを貫き続けていることなど、苦勞しながらも常に前向きに進んでいく濱中流の処世術を紹介し、責任ある大人として生きていくために大切な考え方を分かりやすくユーモラスに伝えてくれました。



マリンポートホテル海士での祝賀会では、海士中学校の恩師である川本美和先生、河内智成先生も交えて楽しい時間を過ごしました。

成人式を迎えての感想や抱負を聞くと、「昔思っていた大人にはまだなれていない。大人って難しいな...」との戸惑いを漏らす声もあれば、「これからは、(地域や両親に)守られる立場から、守る立場になります!」と胸を張る女性もいたり、まさに十人十色。人生の節目にあたり、立場や想いはそれぞれですが、大切な仲間と故郷で過ごした夏の日の思い出を心の糧に、皆さんの人生が今後ますます輝きますよう、心からお祈りいたします。



メッセージを伝える濱中さん

海士の島からのビデオレターに見入る同級生

山内町長と対面し、誓いの言葉を読み上げる川本さん